

2020年度「わいわい文庫」利用アンケートの結果と考察

専修大学文学部
教授 野口 武悟

はじめに

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という未曾有の事態にあって、学校、図書館、医療療育機関など、それぞれの現場では対策に追われる日々だったのでないかと思います。コロナ禍にあって、それぞれの現場で、教育、福祉、医療などのサービスを必要とする人々に提供し続けるために努力されてきたみなさんには、感謝しかありません。

さて、公益財団法人伊藤忠記念財団（以下、伊藤忠記念財団）では、2011年度からマルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」の製作と寄贈を行っています。寄贈先の機関は、特別支援教育を行っている全国の学校（特別支援学校や、特別支援学級・通級指導教室を設置する小・中・高等学校）の学校図書館、障害者サービスを行っている全国の公共図書館、医療療育機関や障害者施設などです。

寄贈した「わいわい文庫」の利用状況と意見を把握し、よりニーズに適った作品の製作につなげることをねらいとして、伊藤忠記念財団では、毎年、寄贈先の機関に対してアンケートを実施しています。

2020年度は、寄贈先1,377件のうち1,246件から回答が寄せられました（回収率90.5%：2020年12月28日現在）。本稿では、そのおもだった結果を紹介するとともに、若干の考察を述べたいと思います。なお、アンケート項目は、年度によって若干異なっています。過去のアンケート結果も参考になりますので、ぜひお読みください。

https://www.itc-zaidan.or.jp/summary/ebook/waiwai/case_study/

おもなアンケート結果とその考察

(1) 「わいわい文庫」で利用が多い作品の対象年齢

対象	特別支援学校	普通学校	図書館	医療機関	教育研究機関	その他	合計
わからない	73	45	190	4	14	5	331
乳幼児～低学年	91	73	42	26	3	25	260
低学年～中学年	141	268	38	14	6	24	491
中学年～高学年	87	78	9	5	4	10	193
高学年以上	65	53	21	7	6	8	160

全体としては、「低学年～中学年」と「乳幼児～低学年」が多いことがわかります。ただし、「わからない」も300を超えています。特に、図書館で「わからない」が目立ちますが、学校など他の寄贈先と異なり、個人利用がメインのためと思われます。

(2)「わいわい文庫」で人気のあるジャンル、製作を期待するジャンル（複数回答可）

ジャンル	特別支援学校	普通学校	図書館	医療機関	教育研究機関	その他	合計
物語	164	289	140	23	11	31	658
詩	19	21	13	2	4	2	61
ノンフィクション	9	26	27	1	3	5	71
昔話	93	160	70	11	10	18	362
伝記	20	46	30	2	3	7	108
絵本	246	276	102	30	15	34	703
紙芝居風	94	104	26	8	6	15	253
言葉	43	45	10	1	4	5	108
生き方	11	25	16	0	2	3	57
社会	15	21	17	0	5	3	61
戦争と平和	13	25	11	0	4	1	54
宇宙	14	41	17	2	2	6	82
地球	15	29	14	3	2	6	69
生き物	68	151	37	14	4	22	296
人の体	32	34	17	4	5	5	97
植物	30	35	17	1	2	5	90
食べ物	106	62	28	10	4	17	227
乗り物	105	96	43	16	3	18	281
スポーツ	33	30	18	1	3	4	89
アウトドア	6	8	4	0	1	0	19
わからない	26	20	86	2	5	6	145

全体として見ますと、絵本と物語が特に人気のようです。ほかにも、回答が100を超えるジャンルは、昔話、伝記、紙芝居風、言葉、生き物、食物、乗り物と多岐にわたります。

この表からわかるように、伊藤忠記念財団は「わいわい文庫」として実に多様なジャンルの作品を製作し寄贈しています。「個々の子どもにあった作品が提供できる」「自分では進んで読まない分野に出会える機会になり、読書の幅が広がった」などの回答コメントに、このことの持つ意味合いの大きさが表れていると思います。

(3) 伊藤忠記念財団が今後取り組むべき活動（複数回答可）

	特別支援学校	普通学校	図書館	医療機関	教育研究機関	その他	合計
作品数の充実	185	248	166	24	15	28	666
ネットでの作品配信	128	157	87	17	9	27	425
研修会の開催	36	50	57	8	8	8	167
活用事例の紹介	91	123	104	11	14	9	352
各作品の内容紹介	53	54	34	3	3	8	155
機材の貸し出し	13	21	25	3	1	4	67

全体として、「わいわい文庫」の作品数の充実が最多でした。機関別に見ても、すべての機関で、作品数の充実が最多となっています。全体で2番目に多かったのがネットでの作品配信、3番目は活用事例の紹介でした。

これら上位に挙げた内容は、過去のアンケートでも似た傾向にありました。2020年度については、Withコロナの状況下で、学校のオンライン授業や図書館での非来館サービスへのニーズの高まりもあり、ネット配信への期待はこれまでになく高まっている印象があります。また、毎年度開催してきた「読書バリアフリー研究会」が今年度はコロナ禍ですべて中止となってしまったことも、活用事例の紹介への高い要望に関係しているのではないのでしょうか。今後は、「読書バリアフリー研究会」のオンライン開催なども検討してほしいと思います。

(4) 自由記述から

毎年度のことではありますが、今回のアンケートでも、たくさんの感想や要望が記述で寄せられています。それだけ、「わいわい文庫」への高い関心を示すものといえます。

記述内容の半数以上は利用しての感想などで、好意的なコメントがほとんどです。2020年度の特徴は、やはりWithコロナのなかで、学校のオンライン授業等での活用事例やその有効性についてのコメントが寄せられたことでしょう。

好評だからこそ、さらなる期待を込めて、要望もたくさん寄せられています。なかでも、例年同様ですが、製作してほしい作品についての要望が目立ちます。

なお、2019年度よりは減少したとはいえ、今後の寄贈は不要との連絡も67件寄せられています。その理由としては、利用の機会や頻度が少ないためという意見が多かったものの、退職や異動で担当者が代わるためという理由も複数寄せられています。毎年度ほぼ同様の傾向です。こうした課題にも引き続きアプローチしていく必要があると思います。

おわりに

文部科学省による「令和元年度生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究：社会教育施設において障害者が学習活動に参加する際に行う合理的配慮に関する調査」（2020年3月公表）の結果では、全国の公共図書館におけるマルチメディアDAISY図書の所蔵率は19.4%でした。国立国会図書館による2018年8月公表の調査結果では15.4%、同じく2011年3月公表の調査結果ではわずか1.3%でしたので、この10年近くで公共図書館の所蔵率は、実に15倍も伸びたこととなります。

これだけ普及が急速に進んだ背景には、伊藤忠記念財団による「わいわい文庫」の製作と寄贈の事業、すなわち電子図書普及事業があったことは間違いありません。ただし、普及が進んだとはいえ、公共図書館の所蔵率はまだ2割にとどまっているともいえます。今回のアンケートでも、伊藤忠記念財団が今後取り組むべき活動のトップに作品数の充実が挙げられています。筆者も、伊藤忠記念財団による「わいわい文庫」のさらなる量的充実と一層の普及促進に期待しているところです。

ところで、新型コロナウイルス感染症収束の気配は、いまだ見えません。Withコロナは2021年も続きそうです。伊藤忠記念財団が今後取り組むべき活動として、作品数の充実に次いで「わいわい文庫」のネット配信を求める意見が多かったのも、こうした状況を反映してのことといえるでしょう。「わいわい文庫」のネット配信に関しては、国立国会図書館の「視覚障害者等用データの収集および送信サービス」を通しての配信が2021年2月にスタートしました。（表紙裏 はじめに 参照）

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）の制定（2019年6月）や、国の「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（読書バリアフリー基本計画）の策定（2020年7月）もあり、読書バリアフリーの一層の推進が求められています。取り組むべき施策の一つには、アクセシブルな電子書籍のインターネットを利用したサービスの提供体制の強化も位置づけられており、「わいわい文庫」のネット配信はまさにこれに適うものといえます。

また、学校現場では「GIGAスクール構想」のもと、ICT環境の整備が急ピッチで進められていますが、これに関連して、2019年6月に制定された「学校教育の情報化の推進に関する法律」では「障害のある児童生徒の教育環境の整備」を施策の一つに位置づけています。「わいわい文庫」のネット配信は、こうした教育の情報化にも大いに資する取り組みといえるでしょう。

もちろん、環境は整備されるだけでよしとするのではなく、それを活かすこと

が大切です。CD形態にせよネット配信にせよ「わいわい文庫」を活かすのは、現場で日々実践されているみなさんです。この冊子に掲載されている実践事例も参考にしながら、Afterコロナも見据えつつ、すべての人たちに読書のよろこびが伝わるように「わいわい文庫」のさらなる活用を進めてほしいと思います。

